

特集1

シンポジウム「日本橋・銀座・汐留ーにぎわいの街ー」

日本橋から汐留への道は、江戸・東京の「メインストリート」です。江戸時代は、五街道の一つの東海道の出発地域として、また江戸城のお膝元として、技能者の街として開発されたこの地域は、その後モノや人の様々な行き交いが繁華に繰り広げられました。

江戸幕府が減って近代になると、まず文明開化の大舞台として劇的な変貌をとげました。明治維新でこの道から生まれた鉄道馬車は路面電車として姿を変え、「市電」「都電」として発展し、首都東京の足として親しまれることになります。また大正・昭和にかけて、とりわけ銀座はモダンな街として注目を集め、東京の中心街となりました。そして関東大震災と第二次世界大戦で二度の被害に遭いながらも再生したこの道筋は、平成の現在、日本の、そして世界有数の繁華街です。昔と変わらぬ道筋とその街並みは、今なお様々なかたちで活性化しつづけています。

シンポジウムでは、メインストリートとして親しまれてきたこの道の魅力やそこに沿った地域の歴史や文化について、歴史・建築史・都市史など、さまざまな分野の講師をお迎えし、語り合いました。本特集は、そこでの発表内容の抄録を掲載するものです。

シンポジウム「日本橋・銀座・汐留ーにぎわいの街ー」

2005年11月19日(土) 江戸東京博物館ホール

第一部 [江戸]

町割りの形成ー近世初期日本橋と銀座の都市設計を考えるー 東京大学教授・伊藤毅
町の意味づけの変遷ー江戸城との関わりからー 当館講師・田原昇

第二部 [近代]

モダン都市の街と建物 当館助教授・米山勇
繁華街の形成と発展 工学院大学教授・初田亨

第三部 [現代・未来]

銀座ライオンをめぐる人びと TS 建築史研究室・菅原定三
銀ブラ文化に未来はあるか 銀座文化史学会会長・三枝進

なお、本シンポジウムに関連し、下記の展覧会・講座を開催いたしました。

第二企画展「日本橋・銀座・汐留ーメインストリートの歴史ー」展

2005年10月21日(金)～12月18日(日) 江戸東京博物館第2企画展示室

2006年度春期えどはくカルチャー「都市・江戸東京の魅力ー銀座 街の物語」

2006年5月19日(金) 江戸東京博物館会議室

講師：三枝進